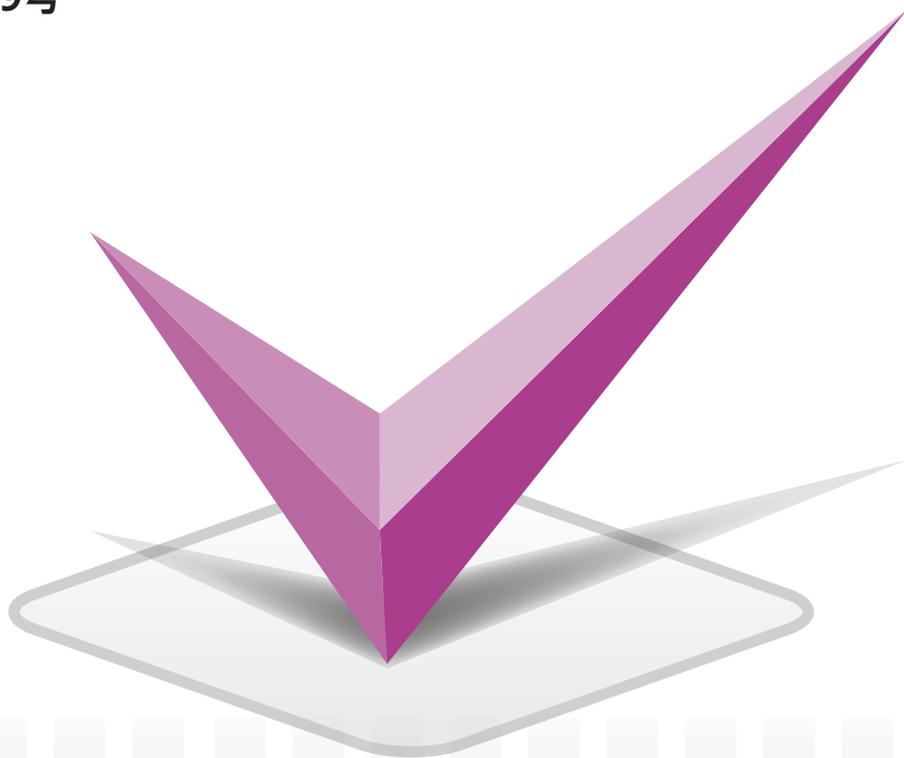


検定協会だより

3

令和6年3月
第519号





令和6年3月号

<https://www.jfeij.or.jp>

目次

巻頭のことば

- 1 「いつでも、どこでも、迅速的確に対応する
消防・救急体制づくり」を目指して

浜松市消防局消防長 太田 陽視

- 4 「検定協会だより」の電子媒体での発行について

企画研究部 情報管理課

国際会議報告

- 7 ISO/TC21/SC5 国際会議等報告

消火・消防設備部 消火設備課 松田 匡史

協会情報

- 11 一般公開のお知らせ

日本消防検定協会
消防庁 消防大学校・消防研究センター
一般財団法人 消防防災科学センター

- 13 「ノズル圧力測定器」の更新について

消火・消防設備部 消防設備課

- 17 スプリンクラー消火試験場の開閉弁改修工事について

消火・消防設備部 消火設備課

- 23 消防関係講習会等への講師派遣について

企画研究部 企画研究課

おしらせ

- 25 令和6年度消防防災科学技術賞の作品募集

消防庁消防研究センター

- 33 令和5年度住宅防火防災推進シンポジウムの
開催について

住宅防火対策推進協議会
一般財団法人 日本防火・危機管理促進協会

- 38 職員採用情報

総務部 庶務課

- 39 有効期限を経過した受託評価品目

- 40 協会通信・業界の動き・
消防庁の動き

- 44 検定・性能評価・受託評価数量
(令和6年2月)

- 42 新たに取得された型式一覧

「いつでも、どこでも、迅速的確に対応する消防・救急体制づくり」を目指して

浜松市消防局消防長

太田 陽 視



《被災された皆様へ》

本年元日に発生した令和6年能登半島地震において、被災された方々にお見舞いと犠牲になられた方の御冥福を心よりお祈り申し上げます。また、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

《浜松市紹介》

浜松市は、静岡県西部で、東京・大阪のほぼ中間に位置しております。新幹線や東名・新東名高速道などの交通条件に恵まれ、現在は、長野県飯田市の中央自動車道を起点として本市浜名区引佐町の新東名高速道までを結ぶ三遠南信道の整備が進められています。管内には、鮎釣りのメッカの天竜川やレジャー、鰻養殖で有名な浜名湖、三大砂丘の一つ中田島砂丘などがあり、温暖で風光明媚な地であります。

市域は、東西約52km、南北約73km、総面積は、1558.06km²と全国で2番目に大きな市域を有し、機能が集積する中心部、先端産業や農水産業が盛んな近郊部・沿岸部、さらに森林、水資源の豊富な中山間地を有し、それぞれに文化、歴史、自然があり、全国縮図型都市といわれております。

昨年は、大河ドラマ「どうする家康」の放送に合わせ、徳川家康公、大河ドラマそして浜松の魅力を発信するイベントが開催され、毎年5月に開催される浜松まつりでは、松本潤さんが扮する家康公騎馬武者行列が行われ、多くの方から「殿おー！」の声が飛



び、アフターコロナの到来を感じることができました。家康公が17年間を過ごした浜松城は、歴代の城主が幕府の要職に登用されたことから「出世城」とも言われておりますので、浜松にお越しいただいた際には、うなぎ、浜松餃子、みそ饅頭などを食しながら家康公ゆかりの史跡を散策してみてもはいかがでしょうか。

また、今回の大河ドラマには登場しませんでした。家康公の家臣本多作左衛門重次が陣中から妻子にあてた簡潔明瞭な手紙は、消防の真理のような「火の用心」の由来とされています。



《合言葉は「やらまいか！」》

本市（遠州地方）には、「やらまいか」という方言があります。この言葉は、「やってみよう」や「やってみようじゃないか」を意味し、新しいことに果敢にチャレンジする精神を表しています。この言葉を合言葉に、本市発展の基盤となった繊維、楽器、オートバイ等の産業が起業し、今日では、世界をリードする光・電子・医療機器産業等の各分野へ昇華させております。この「やらまいか」は、創造都市・浜松の原動力となっております。

《消防局の取組み》

浜松市消防局では、災害現場での安全管理を行う安全管理隊や新消防指令管制システムの運用を開始したほか、4月からは救急需要増加への対応を目的に日勤救急隊の本格運用を開始する予定です。消防団員の加入促進では、動画コンテンツを女性及び学生などのターゲット層に効果的に届けるため、



Instagram ストーリーズ広告やジオターゲティング広告等を活用した事業を展開しています。

予防行政では、浜松市DX推進計画に基づき、火災予防関連分野での電子申請を導入するとともに、デジタル技術を活用した業務改善や諸課題を整理するため、予防業務全般についてのDX（デジタルトランスフォーメーション）についても積極的に取り組んでいます。また、火災発生件数が減少傾向にある中、複雑多様化する火災発生原因を究明し的確な調査を行うことと人材育成強化の観点から、機動火災調査班を組織し、消防署長が行う火災原因調査をサポートする体制を構築しました。さらに、調査結果をもとにSNS等のデジタル媒体を活用した広報活動を積極的に展開することで、市民の防火意識の高揚に努めています。

当局では、こうした取り組みにより、諸施策における消防行政サービスの充実・強化を推進しています。

《結びに》

近年、社会・経済状況の変化や気象環境の変化の影響により消防を取り巻く状況は大きく変化しておりますが、今後も職員一丸となって「やらまいか」を合言葉に、市民の安全安心のため、様々な消防需要に対して迅速的確に対応できる消防・救急体制づくりを目指してまいります。

結びに、日本消防検定協会並びに消防関係の皆様のみすますの御発展と御健勝を祈念いたしまして、巻頭の言葉とさせていただきます。

「検定協会だより」の電子媒体での発行について

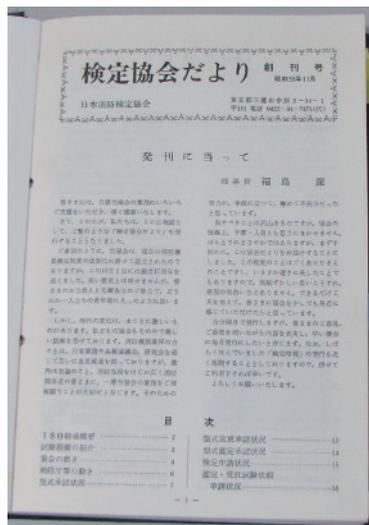
企画研究部 情報管理課

当協会機関誌「検定協会だより」は、昭和55年11月に創刊号を発刊以来、当月号（第519号）をもちまして43年5ヶ月が経過いたしました。これまでを振り返りバックナンバーを紐解いてみますと、表紙デザインひとつとっても、先人達の想いが込められていることが分かります。

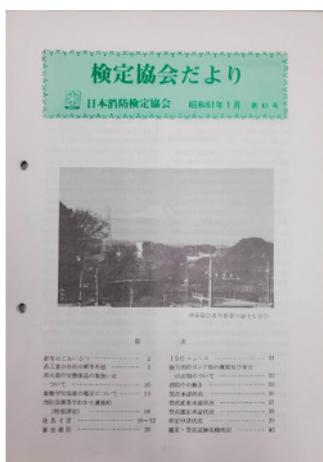
当初、創刊号より第60号（昭和60年12月）までは、表紙デザインは無く発行されましたが、その後、モノクロ写真、切手収集家所有の切手、更にはデザイナーによる水玉、若葉、三角、F（エフ）、✓（チェック）をイメージしたデザインへと変遷し、現在に至っております。

このように歴史ある「検定協会だより」でございますが、令和6年4月からは紙面での印刷及び配布は行わず、電子媒体での発行へと変更させていただくことといたしました。

何卒、ご理解をいただきまして、今後も引き続き、ご愛読いただけますようお願い申し上げます。



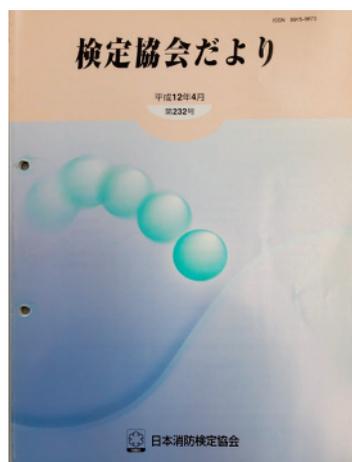
創刊号表紙ページ



昭和61年1月～
同年12月



昭和62年1月～
平成12年3月



平成12年4月～
平成13年3月

検定協会だより 令和6年3月

なお、当協会ホームページからのアクセスは、次のとおり、「トップページの検定協会だより」からご確認いただけます。よろしくお願いいたします。

トップページから「検定協会だより」を選び、「バックナンバー」をクリック



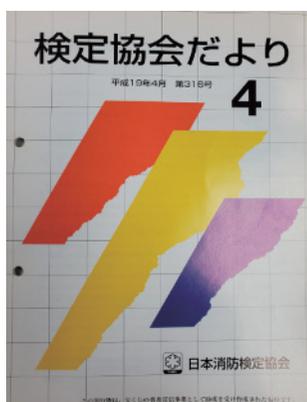
平成13年4月～
平成14年3月



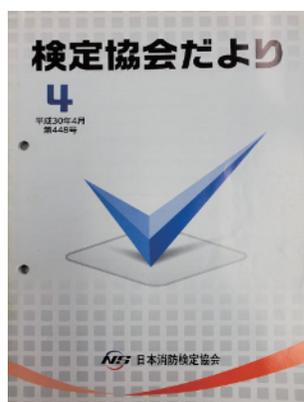
平成14年4月～
平成19年3月

検定協会だより 令和6年3月

トップページから「検定協会だより」を選び、「過去記事タイトル一覧」をクリック



平成19年4月～
平成30年3月



平成30年4月～
令和6年3月

検定協会だより 令和6年3月



ISO/TC21/SC5 国際会議等報告

消火・消防設備部 消火設備課
松 田 匡 史

1. はじめに

ISO/TC21/SC5は、ISOの専門部会（TC：Technical Committee）のうちの1つであるTC21（消防器具）の傘下の5番目の分科会であり、「水を使用する固定消火設備分科会」に関連する国際規格について議論し、今回は去年の10月に開催されたキプロス会議に続く第44回目の会議である。

今年の会議は、SC5国際会議と同時にSC5傘下の作業部会の内、WG9（スプリンクラーとノズル）及びWG10（バルブと装置）及びWG11（配管と継手）の会議が開催された。

2. 場所

米国 ミルウォーキー

Johnson controls-Buildings HQ

3. 日時

2023年11月7日(火) 9:00~16:00

2023年11月8日(水) 9:00~16:00

2023年11月9日(木) 9:00~12:00



4. 参加者

日本：吉葉氏(SC5委員長/能美防災(株))

小林係長（消防庁予防課）

桜井主事（ISO/TC21事務局）

君和田氏（通訳）

松田（SC5/WG1主査）

参加国：米国、ルクセンブルク、ドイツ

マレーシア（WEBで参加）、

ケニア（WEBで参加）

5. 議事

(1) 開会

議長より開会宣言があった。

(2) 出席者と議事次第の採択

出席者の紹介があり、議事次第が採択された。

(3) 委員会マネージャーからの報告

各アイテムのステータスについて説明があった。

バルブ関連統合規格（6182-2）はDIS投票前である。6182-3,4,5,6,7,8はバルブ関連統合規格が作成され次第、廃止される予定である。

フレキシブルホース（6182-18）は現在CD段階であり、今会議で、逐条で内容の確認と修正を行うことが周知された。

耐震装置（6182-19）は今会議でスコープは合意をすることが周知された。

非金属パイプ（6182-20）は今会議でスコープは合意をすることが周知された。

(4) WG9（スプリンクラーとノズル）からの報告

プロジェクトリーダーから各アイテムの現状について説明があった。

スプリンクラー（6182-1）は、2021年8月に統合規格が発行され、現時点での見直しは倉庫用やKファクターの大きいスプリンクラー等が考えられるが、大きな見直しは必要ないとの考えが示された。

ウォーターミストノズル（6182-9）は、ENで規格が作成されたので、EN規格を参考に見直し、SRを早めることが周知された。

(5) WG10（バルブと装置）からの報告

WG10のコンビナーのChris Gill氏の任期を2024-2027年の3年間延長することが決定された。

プロジェクトリーダーから各アイテムの現状について説明があった。

ア バルブ統合規格（6182-2）は現在DISをかける状態となっている。日本からのコメントとして図3の試験装置図は複数箇所参照しており、登場する場所毎に図を配置したいとの意見である。この方法はISO事務局で反対される可能性があるが、今回は場所毎に配置してみる事となった。

イ バルブ統合規格（6182-2）に含まれる他のバルブ規格（6182-3, 4, 5, 6, 7, 8）は、統合規格が制定されたら廃止することが周知された。

ウ バルブ統合規格に入らなかったポンプ逃がし弁（6182-16）及び減圧弁（6182-17）は提案者が欠席したため、内容については触れなかった。次のWGまでに各自見直しをし、コメントすることとなった。コメントの共有方法は委員会マネージャーが検討することになった。

(6) WG11（配管と継手）からの報告
6182-19（耐震装置）

プロジェクトを提案するためにス

コープを決定した。

日本から、想定する地震の情報をスコープに追加するべきではないかと提案したが、各国によって揺れや震度が違うことや、建物の構造等が違うため、想定する地震の情報を一概に表現できないとの説明があった。その結果、イントロダクションにおいて、設備の設計条件等は本規格の範囲外であり、耐震の必要性を判断するのは各国で行うこととの記述が追加された。

(7) WG11（配管と継手）からの報告
6182-18（フレキシブルホース）

プロジェクトリーダーからアイテムの現状について説明があった。

現在、CD段階であり、逐条で内容の確認と修正を行った。

(8) WG11（配管と継手）からの報告
6182-20（非金属パイプ）

プロジェクトを提案するためにスコープを決定した。

スコープ案はJeff氏が提案した文を検討し決議した。その結果、プラスチックは非金属へ、湿式は湿式と乾式へ、スプリンクラーシステムはミストでも使うことからウォーターベースの消火設備とスプリンクラー設備に修正された。

(9) SC5のスコープについて

TC21のスコープを参考にSC5のスコープが検討された。その結果、SC5のスコープは、“スプリンクラー、ノ

ズル、バルブ、カップリング、パイプ、システムサポート、システムプレース、フィッティング、その他のシステムコンポーネントを包含する機器の規格を含む、水を使用した固定式の消火設備の分野の規格”とすることが決定された。

(10) 新しく規格化する候補について

6182-12グループドエンドコンポーネントの中のメカニカルティーは別アイテムにした方が良いとの意見があった。アメリカにはメーカーが2社あるとのこと。日本では見たことがないので、必要性は保留とした。

(11) 新しいビジネスについて

各国の意見収集があり、ルクセンブルクと日本とアメリカからはアイデアが出なかったが、ドイツはウォーターミストと配管の腐食に興味があるとのことであったが、結論は出なかった。

今後の開発規格案として、メカニカルティー/溶接ティー、金属配管、不凍液、ハイブリッドウォーターミストノズル、ネジ式継手、フランジ継手があげられた。

(12) 決議事項

以下の決議事項が採択され承認された。

2023-2 ISO/TC21/SC5は44回総会を開催してくださった
Manny Silva氏とJohnson

Controls社に感謝の意を表
します。

2023-3 ISO/TC21/SC5は44回 総会
の議題案を承認することを
決議する。

2023-4 ISO/TC21/SC5は WG10の
コンビナーのChris Gill氏
の任期を2024-2027年の3年
間延長することに承認す
る。コンビナーを指名した
メンバー団体は、この指名
を確認済みである。

2023-5 NP6182-18フレキシブルス
プリンクラーホースは、プ
ロジェクトリーダーをGreg
Ohnemus氏、担当をWG11、
開始ステージを30.00とする。

2023-6 6182-20非金属パイプはス
コープのみを示し、担当は
WG11、開始ステージを
00.00とし、Pメンバーから
のエキスパートを募集す
る。

2023-7 6182-9ウォーターミストノ
ズルの要求事項と試験方法
の定期見直しを2024/3/19
から開始する。

2023-8 SC5のスコープを“スプリ

ンクラー、ノズル、バルブ、
カップリング、パイプ、シ
ステムサポート、システム
プレース、フィッティング、
その他のシステムコンポー
ネントを包含する機器の規
格を含む、水を使用した固
定式の消火設備の分野の規
格”とする。

2023-9 6182-19耐震装置はプロ
ジェクトリーダーをGreg
Ohnemus氏、担当をWG11、
開始ステージを20.00とす
る。エキスパートを決定し
た。

2023-10 次回の総会はTC21総会と
合わせ、2024/9/9の週に英
国ロンドンで開催すること
とする。

(13) 閉会

●議場





一般公開のお知らせ

日本消防検定協会
消防庁 消防大学校・消防研究センター
一般財団法人 消防防災科学センター

日本消防検定協会、消防庁消防大学校・消防研究センター及び一般財団法人消防防災科学センターでは、令和6年度の科学技術週間にあたり、一般の方々に試験研究施設を公開するとともに、消防用機械器具・消防防災の科学技術に関する研究の展示、実演等を下記のとおり行いますので、皆様お誘い合わせの上、ご来場くださいますようお願い申し上げます。

記

1 日時

- (1) オンライン開催
令和6年4月12日(金)～22日(月)
- (2) 実開催 入場無料
令和6年4月19日(金)
午前10時から午後4時まで

2 オンライン開催

消防研究センターホームページ
(<https://nrifd.fdma.go.jp>)

3 実開催場所(同一敷地内にあります。)

日本消防検定協会
(東京都調布市深大寺東町4-35-16)
消防大学校・消防研究センター
(東京都調布市深大寺東町4-35-3)

4 公開内容

【日本消防検定協会】

住宅用消火器による消火実演及び展示、消火器の操作体験、住宅用防災警報器の展示と実演、各種消防用機械器具等の展示

【消防大学校・消防研究センター】

- (1) 実開催で予定している公開内容
消防車両の展示、軽油の燃焼実験、

災害時の消防力・消防活動能力向上に関する研究開発の紹介、石油タンクの安全性に関する研究開発の紹介、原因調査室の業務紹介等

- (2) オンライン開催で予定している公開内容

消防大学校での教育訓練(ホットトレーニング)、大型石油タンクの地震時底板浮き上がり応答解析、高発泡装置を用いた泡消火実験、地すべり地形を対象とした日中・夜間のドローンレーザー計測実証試験の紹介等

【消防防災科学センター】

避難所HUG(風水害版)の実演、消防力適正配置等調査、近年起きた災害等の被害や災害対応の状況を写真などで紹介

5 交通機関

- (1) JR吉祥寺駅南口、6番乗り場
「深大寺」「野ヶ谷」「調布駅北口」行きバスで「消防大学前」下車
- (2) JR三鷹駅南口、8番乗り場
「野ヶ谷」行きバスで「消防大学前」下車
- (3) 京王線調布駅北口、11番乗り場
「杏林大学病院」行きバスで「中原3丁目」下車、徒歩5分

6 問い合わせ先

■日本消防検定協会 企画研究部情報管理課
0422-44-7471(代) <https://www.jfeii.or.jp>

■消防研究センター 研究企画室
0422-44-8331(代) <https://nrifd.fdma.go.jp>

■一般財団法人消防防災科学センター 総務部
0422-49-1113(代) <https://www.isad.or.jp>

公開内容（日本消防検定協会）

項目	概要	場所・時間
住宅用消火器による消火実演	住宅用消火器による天ぷら油火災の消火実演を見学できます。	消火散水試験場 実演： ①11：30～11：45 ②14：30～14：45
消火器の操作体験及び展示	訓練用消火器を用いて目標物に放射する消火の疑似体験ができます。また、各種消火器を展示紹介します。	消火散水試験場 操作体験・消火体験： 随時 (12：00～13：00は除く)
住宅用防災警報器の展示及び実演	当協会の検定に合格した住宅用防災警報器を紹介します。また、無線式の住宅用防災警報器が連動する様子を見学できます。	情報館1階 実演：随時
各種消防用機械器具等の展示	消火器、スプリンクラーヘッド、火災報知設備、消防用ホースなど、各種消防用機械器具等を紹介しします。	情報館1・2階展示室 随時

※ 日本消防検定協会では、現在、(新)中央試験場建設工事のため、一部通行帯を制限した上での一般公開となり、ご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力いただきますようお願いいたします。



住宅用消火器による消火実演（2023）



屋内消火栓の操作体験（2023）



「ノズル圧力測定器」の更新について

消火・消防設備部 消防設備課

動力消防ポンプの放水性能試験等に使用するノズル圧力測定器を更新しましたので、紹介いたします。

1 概要

動力消防ポンプの技術上の規格を定める省令（昭和61年自治省令第24号）第21条及び第22条に規定されるポンプの放水性能等を確認する試験にて使用する測定器です。

第21条ではポンプの放水性能試験が規定され、ポンプの性能が規格値を満足しているかを確認しております。

また、第22条では連続放水試験が規定され、定められた条件においてポンプの耐久性を確認しております。

いずれの試験においても、ポンプの放水量の測定が必須になりますが、ノズルから放水される水の圧力（ノズル圧力）を測定することにより、当該放水量を確認するための装置がノズル圧力測定器です。

2 ノズル圧力測定器の構成について

ノズル圧力測定器は、ピトー管、ピトー管距離調整部、管そう部（本体）で構成されています。

主に消防ポンプ自動車に搭載される動力消防ポンプの試験用のため、ポンプの性能を考慮して、大きさは呼称65及び呼称75の2つとしました。

以下に呼称75を例に各部の特徴を挙げます。

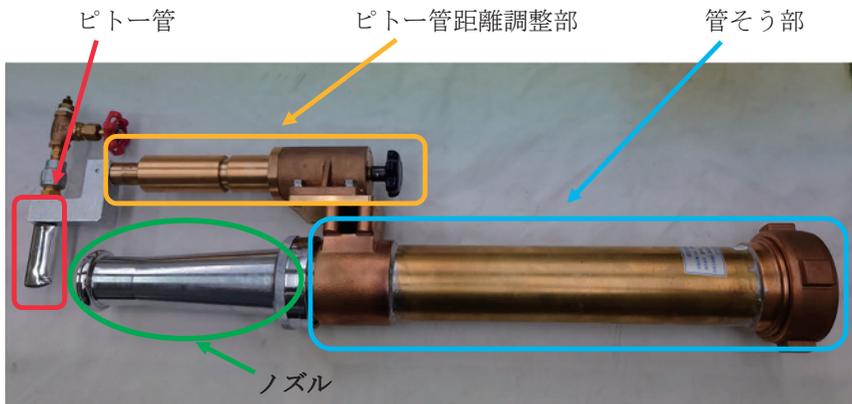


写真1 ノズル圧力測定器（呼称75）外観

(1) 管そう部

試験の際、ポンプへの接続及びノズルを取り付けるため、本体は管そうの構造を有しています。

ノズル結合部は、ノズルチップの差し口、ポンプ接続側は、ねじ式結合金具の受け口の形状となっています。



写真2 管そう部全体



写真3 ノズル結合部



写真4 ポンプ接続部

(2) ピトー管距離調整部

ノズル圧力測定の際は、ノズルの大きさによって、ノズルとピトー管との距離を調整する必要があります。そのため、調整ハンドルにより可動部を動かして当該距離の調整を容易に行えるようになっております。



写真5 ピトー管距離調整部全体

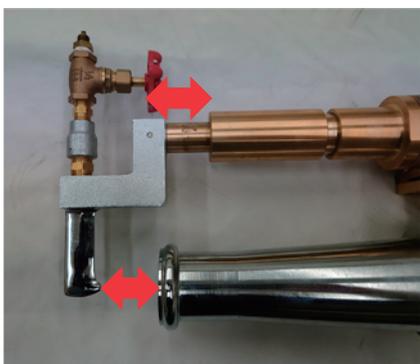


写真6 可動部

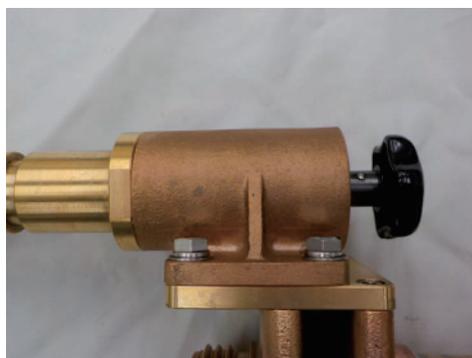


写真7 調整ハンドル

(3) ピトー管

ノズル圧力を測定するため、放出される水を受け流せるよう特殊な形状をしたものになります。

また、ノズルの筒先より放出される水の圧力を測定するため、ピトーの筒先から内部にかけて小さな水路が設けられており、その出口に圧力測定装置に接続できるよう継手を設けてあります。

これにより、高圧で放出される水に対しても、圧力が測定できる構造となっております。

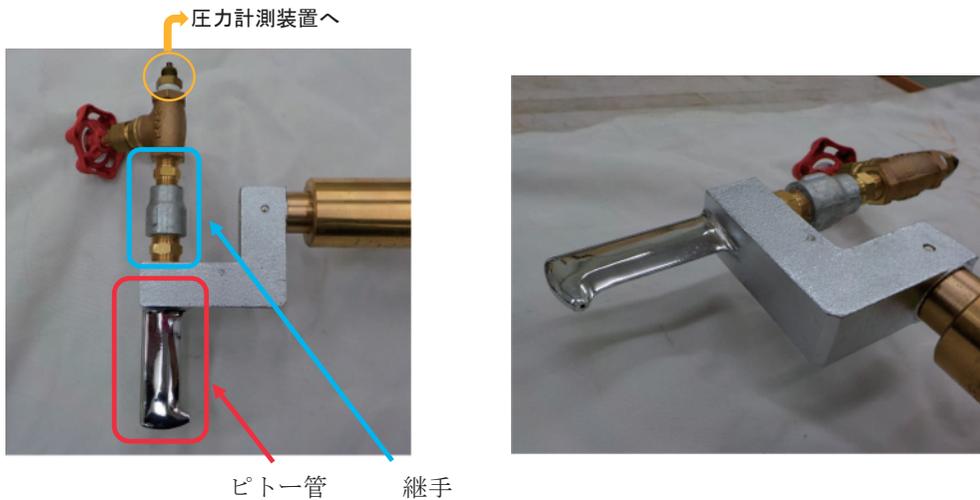


写真8 ピトー管

3 測定器の仕様

ノズル圧力測定器の主な仕様を表1に示します。

表1 ノズル圧力測定器の主な仕様

項目	仕様	
測定器の全長 (ピトー管距離最短時)	呼称65	660 mm
	呼称75	755 mm
測定器の重量	呼称65	6.1 kg
	呼称75	10.5 kg
管そう部	材質：CAC406	
	ポンプ側接続部	呼称65：ねじ式結合金具受け口 呼称65
		呼称75：ねじ式結合金具受け口 呼称75
	ノズルチップ	呼称65：JIS B 9913 呼び65
呼称75：JIS B 9913 呼び75		
ピトー管	材質：CAC406	



スプリンクラー消火試験場の開閉弁改修工事について

消火・消防設備部 消火設備課

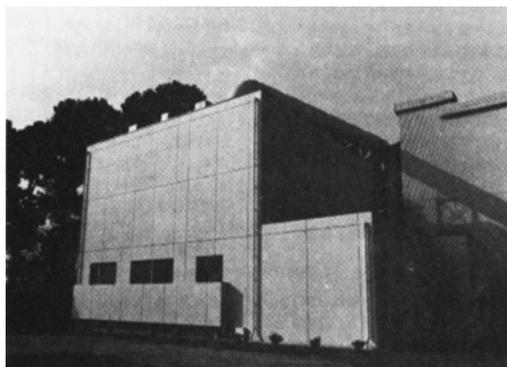
はじめに

スプリンクラー消火試験場では、閉鎖型スプリンクラーヘッドの散水分布試験を実施しています。この度、老朽化していた散水を制御する開閉弁を改修いたしましたのでご報告させていただきます。今回は、スプリンクラー消火試験場の変遷にもふれつつ改修内容についてご紹介させていただきます。

1 スプリンクラー消火試験場について

スプリンクラー設備は、初期火災の自動消火設備として非常に信頼性の高いものとなっています。その高い信頼性を確保するために、技術上の規格が制定されました。閉鎖型スプリンクラーヘッドはその性質上、普段は漏水することがなく、万が一の場合には確実に決められた温度で作動し、均一に散水できなければなりません。それらの性能への適合性を確認するために、作動試験、放水量試験、散水分布試験等の様々な試験を行っています。

また、国際規格の試験に関する検証や実験等にも対応できるように考慮し、スプリンクラー消火試験場は昭和56年11月に竣工されました。



竣工当時の試験場



現在の試験場

検定協会だより 令和6年3月

その後、平成7年の規格改正時には小区画型ヘッドの区分が取り入れられました。小区画型ヘッドの試験では従来の散水分布試験に加え、壁面散水分布試験が加わりました。規格省令で次のように定義されています。

「標準型ヘッドのうち、加圧された水を第14条第2号イに規定する範囲内及び同号ロに規定する壁面の部分に分散するヘッドをいう。」



壁面散水分布試験装置



試験時の様子

また、平成18年に発生した長崎県の高齢者グループホーム火災を受けて、翌年には消防法施行令及び消防法施行規則が改正され、平成20年の閉鎖型スプリンクラーヘッドの規格省令改正では水道連結型ヘッドが追加されました。水道連結型ヘッドは、従来のヘッドに比べ放水圧力が低く、また、水量が少ないことから求められる性能等の基準が新たに定められました。この改正で、従来の散水分布試験及び壁面散水試験による方法に加え、4つのヘッドを用いた散水分布試験が追加になりました。



水道連結型ヘッド散水分布試験装置



試験の様子

参考（「閉鎖型スプリンクラーヘッドの技術上の規格を定める省令」より抜粋）

第14条 ヘッドの散水分布は、0.1メガパスカルから1メガパスカルまでの範囲の放水圧力で放水した場合、次の各号に適合するものでなければならない。

一 （略）

二 小区画型ヘッドは、次によること。

イ 小区画型ヘッドは、別図2に示す散水分布試験装置を使用して各採水ますへの散水量を測定した場合において、当該ヘッドの軸心を中心とする半径260センチメートルの範囲内の各採水ますの平均採水量が毎分0.2リットル以上で、かつ、各採水ますの採水量が毎分0.02リットル以上であること。

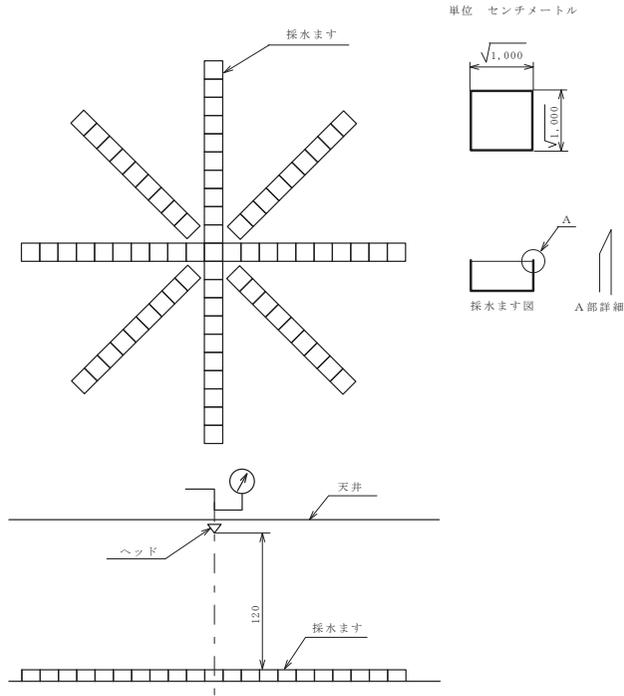
ロ 小区画型ヘッドは、別図5に示す壁面散水分布試験装置を使用して測定した場合において、各壁面の採水量が毎分2.5リットル以上であること。この場合において、放水した水は床面から天井面下0.5メートルまでの壁面を有効に濡らすものであること。

三 （略）

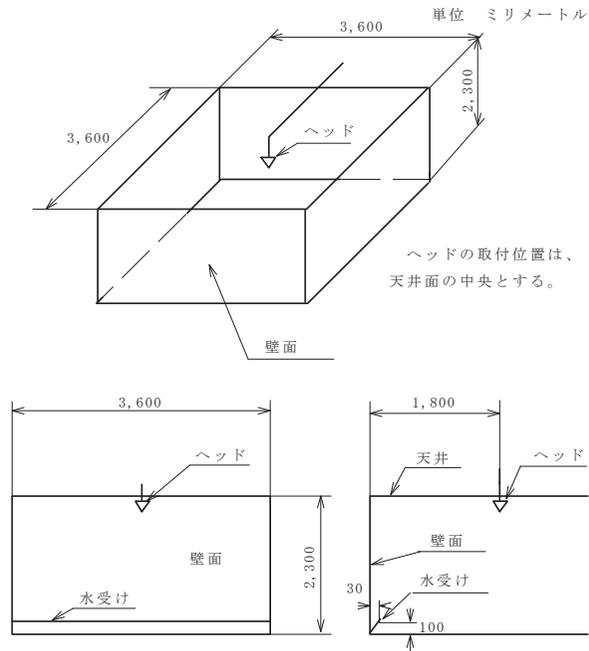
2 水道連結型ヘッドの散水分布は、最低放水圧力で放水した場合において、別図8に示す散水分布試験装置を使用して各採水ますへの散水量を測定したとき、各採水ますの平均採水量が毎分0.08リットル以上で、かつ、各採水ますの採水量が毎分0.02リットル以上であること。

3 第1項（第一号及び第三号を除く。）の規定は、水道連結型ヘッドの散水分布について準用する。この場合において、同項中「0.1メガパスカル」とあるのは「0.05メガパスカル又は放水量が毎分30リットルとなる放水圧力のうちいずれか大きい値」と、同項第二号イ中「毎分0.2リットル」とあるのは「毎分0.08リットル」と、同号ロ中「毎分2.5リットル」とあるのは「毎分0.8リットル以上で、かつ、四壁面の合計が4リットル」と読み替えるものとする。

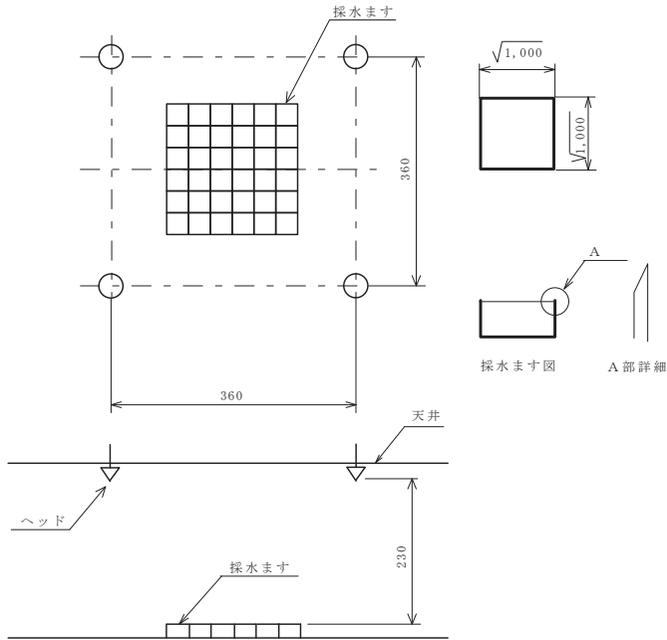
別図2 標準型ヘッド及び小区画ヘッド散水分布試験装置



別図5 小区画型ヘッド壁面散水分布試験装置



別図8 水道連結型ヘッド散水分布試験装置



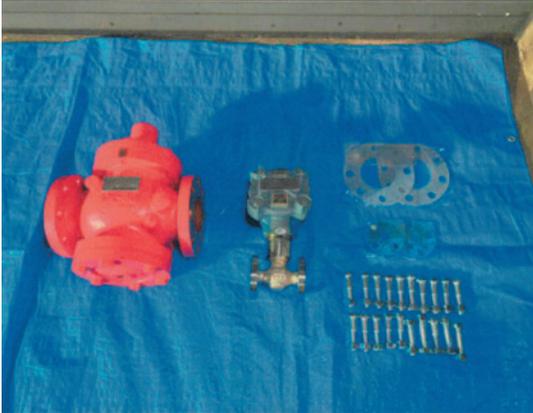
2 改修内容

散水分布試験等を実施する際には、天井に設置された開閉弁及び制御用の電電弁により水の制御を行っています。これらの設備が老朽化したため、改修工事を行いました。

(1) 開閉弁の仕様

口	径	80A
最	大	流
量		1800L/min
使	用	圧
力	範	圍
		0.15~1.4MPa
設	置	方
向		縦
		横
全	長	300mm
重	量	40.7kg

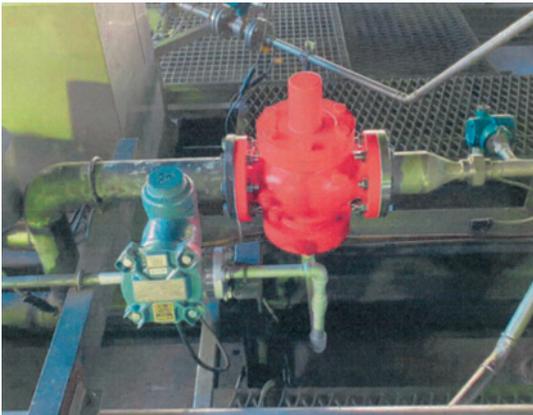
(2) 改修箇所



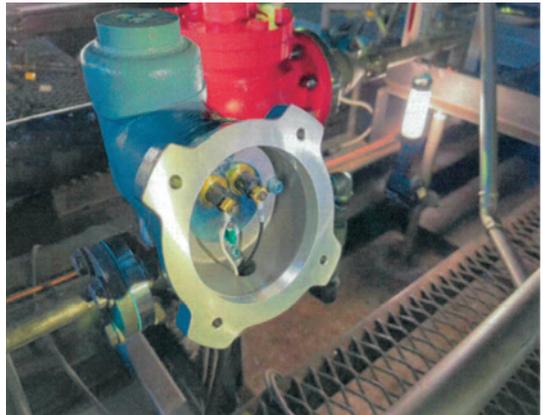
交換する開閉弁一式



老朽化した開閉弁一式



交換後の状態



電動弁の配線



消防関係講習会等への講師派遣について

企画研究部 企画研究課

日本消防検定協会では、主に消防職員の皆様を対象とした消防本部や消防学校などが主催する講習会等に当協会職員を派遣して、当協会の業務内容、検定制度、消防用機械器具等に関する講演等を行わせていただく事業を実施しています。本稿では、その概要についてご紹介させていただきます。

1 講演内容

主に当協会の業務に関わる次のテーマについてお引き受けしております。内容の詳細や講演時間については、その都度ご相談に応じます。

(1) 日本消防検定協会の業務について

当協会の業務を紹介し、消防法に基づく検定制度への理解を深めていただく内容となります。

(2) 消防用機械器具等の性能を確保するための制度について

消防法に規定される検定、自主表示、認定といった制度の違いを消防法令とともに紹介し、性能確保のために当協会が担う役割について理解を深めていただく内容となります。

(3) 日本消防検定協会が検定や受託評価を実施する個別の消防用機械器具等について

ご要望に応じ、特定の消防用機械器具等の検定や受託評価について説明し、当協会の有する知見を活用していただく内容となります。

2 講演料等

講演料や講師への謝金は不要です。旅費の支給有無については、ご相談に応じます。なお、原則として20名以上が参加する講習会等を対象としており、受講料を徴収する興行的な講習会等への派遣はお断りしております。

3 過去に依頼を受けた団体一例

大阪市消防局高度専門教育訓練センター

千葉県消防学校

新潟県消防学校

福井県消防長会・一般社団法人福井県消防設備協会（共催）

【過去の事例紹介】

令和5年8月に千葉県消防学校の予防査察科において、当協会の職員を派遣し、「消防用設備等の構造・機能」をテーマに講義を実施しました。

講義には、千葉県内各消防本部で、予防査察業務に従事又は予定している消防職員の皆様が受講され、当協会の職員から業務紹介とともに、消防用設備等全般の構造・作動原理について説明を行いました。

受講者からは、『日本消防検定協会が取り組む業務を把握することができ、また協会の役割について理解が深まり、非常に充実した講義を受けることができました。』などの感想をいただきました。

受講された皆様、熱心にご聴講いただき誠にありがとうございました。



写真：講義の様子

4 講師派遣の依頼方法等について

当協会へ講師派遣をご依頼される場合は、下記の連絡先までご連絡ください。

また、ご不明な点等がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

なお、業務の都合上、やむを得ずご依頼をお受けすることができない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

連絡先：日本消防検定協会 企画研究部 企画研究課

TEL：0422-44-8471（企画研究課直通）

FAX：0422-44-8415

E-mail：kikaku@jfeii.or.jp

令和6年度消防防災科学技術賞の作品募集

消防研究センター

消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学に関する論文及び原因調査に関する事例報告の分野において、優れた業績をあげた等の個人又は団体を消防庁長官が表彰することにより、消防防災科学技術の高度化と消防防災活動の活性化に資することを目的として、「令和6年度消防防災科学技術賞」の作品募集をいたします。皆様の一層のご応募をお待ちいたしております。

詳細は、消防研究センターホームページ (<https://nrifd.fdma.go.jp>) をご覧ください。



【応募区分】

■消防職員・消防団員等の部

- A. 消防防災機器等の開発・改良
- B. 消防防災科学論文
- C. 消防職員における原因調査事例

■一般の部

- D. 消防防災機器等の開発・改良
- E. 消防防災科学論文

【応募受付期間】

令和6年4月1日(月)～4月22日(月)
※4月22日(月)の消印有効

【表彰】

優れた作品には、11月に行われる表彰式(東京都内)において、消防庁長官より表彰状及び副賞を授与します。表彰件数は次のとおりです。

●優秀賞

・消防職員・消防団員等の部

- A. 消防防災機器等の開発・改良 5件以内
- B. 消防防災科学論文 5件以内
- C. 消防職員における原因調査事例

10件以内

・一般の部

- D. 消防防災機器等の開発・改良 5件以内
- E. 消防防災科学論文 5件以内

●奨励賞

消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例 3件以内

- ・6月頃に、応募作品の「概要」が消防研究センターホームページで公開されます。
- ・受賞作品は、9月頃に決定・発表される予定です。

問い合わせ先

消防庁消防研究センター 研究企画部
TEL: 0422-44-8331 (代表)
E-mail: hyosho_nrifd8@soumu.go.jp

令和6年度消防防災科学技術賞

応募要領

消防庁消防研究センター

1. 趣旨

消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学に関する論文及び原因調査に関する事例報告の分野において、優れた業績をあげた等の個人又は団体を消防庁長官が表彰することにより、消防防災科学技術の高度化と消防防災活動の活性化に資することを目的とします。

2. 主催

消防庁

3. 応募

3.1 応募者の区分

応募者の区分は次のとおりとします。

なお、消防職員・消防団員等と、それ以外の個人又は団体とが共同で応募する場合は、主たる応募者の所属で区分します。

(1) 消防職員・消防団員等の部

消防職員・消防団員等の個人又は団体

(都道府県消防防災主管課、都道府県消防学校等の消防防災に係わる行政機関の職員を含む。)

(2) 一般の部

(1)以外の個人又は団体

3.2 作品の区分

作品の区分はそれぞれ次のとおりとします。

消防職員・消防団員等の部	一般の部
A. 消防防災機器等の開発・改良 消防防災活動において活用するために創意工夫された機器等を開発又は改良したもの。	D. 消防防災機器等の開発・改良 消防防災活動において活用するために創意工夫された機器等を開発又は改良したもの。
B. 消防防災科学論文 消防防災活動における問題点を技術的な観点から解決又は考察したもの。	E. 消防防災科学論文 消防防災活動における問題点を技術的な観点から解決又は考察したもの。または、消防防災分野における事項に関して検証や分析を行ったもの。
C. 消防職員における原因調査事例 消防機関において実施された原因調査で、消防防災科学技術の観点から解決又は考察したもの。	

3.3 応募方法

- ・応募書類は、別紙1-1「応募書類作成要領」に則って、日本語で作成してください。
- ・応募書類は、応募様式（Microsoft Word 形式、消防研究センターホームページからダウンロードしたもの）と、それをPDF化したファイルの2種類をCDに保存し、次の宛先までお送りください。（※CD盤面には文字の記入はしないでください。）
- ・一人又は一団体が複数の作品を送付する場合は、作品数を明記の上、一枚のCDにまとめることができます。
- ・応募書類の封筒表書き面に「消防防災科学技術賞応募書類在中」と朱書きで明記してください。
- ・応募書類の【封筒】には、連絡担当者のお名前、メールアドレス、連絡の取れる電話番号等を記載いただくか、これらを記載した紙面を同封してください。（CDデータが読み取れない場合等に連絡する場合があります。）
- ・発送記録や受領記録が残る形式（郵送又は宅配便）で送付してください。（持参されても受理することができません。また、応募書類の受理に関する問い合わせはお受けできません。）
- ・応募書類以外の資料（カタログ、動画等）は、送付されても審査の対象となりません。
〈送付先〉
〒182-8508 東京都調布市深大寺東町4-35-3
消防庁消防研究センター 研究企画部

3.4 応募受付期間

令和6年4月1日（月）～4月22日（月）
令和6年4月22日（月）の消印を有効とします。

3.5 応募にあたっての注意事項等

(1) 共通事項

- ・過去に本表彰事業に応募されたものと同一の作品は対象外とします。
- ・6月頃に、すべての応募作品の「概要」が消防研究センターホームページで公開されます。公開にあたり、本表彰事業への応募をもって今後の公開に同意したものとみなし、改めての意思確認は行いません。
- ・応募書類の個人情報等（写真中の個人・団体等に関する情報を含む。）の取扱いには十分注意してください。記載されている会社名、団体名は公開されますので、必要な場合は記号に置き換えてください。
- ・必要に応じて、所属組織内で事前の了解を得ることをお勧めします。
- ・受理した応募書類の返却や、差替えはできません。
- ・応募者の個人（所属、氏名）又は団体名については、応募後の変更は出来ませんのでご注意ください。（表彰状及び副賞の記載は、個人の場合は所属及び氏名、団体の場合は団体名になります。）。

(2) 「消防職員における原因調査事例」の場合

- ・係争中の事例は応募できません。
- ・本区分の応募は、「消防職員」に限られます。

4. 審査及び評価のポイント

4.1 審査

- ・審査は、有識者で構成される選考委員会によって行われます。

4.2 評価のポイント

応募作品の審査にあたっては、消防活動に関わる現場の視点を重視します。

(1) 「消防防災機器等の開発・改良」の場合

技術的な創意・工夫を有するもの、安全性が担保されているもの、傷病者などに不利益を与えないもの、普及を推奨できるもので、製造業者等との相談を行っているなど、今後の消防防災活動において活用が見込まれるもの。

(2) 「消防防災科学論文」の場合

技術的な創意・工夫を有するもの、先見性を有するもの、適切な検証がなされているもので、今後の消防防災の分野において応用・発展が見込まれるもの。

(論文の例)

- ・ 燃焼現象等に関する新たな学術的知見及びそれをベースにした検証
- ・ アンケート等に基づく実態調査・考察
- ・ 事故予防・被害軽減の具体的な手法
- ・ 検証に基づく地域防災活動のあり方

(3) 「消防職員における原因調査事例」の場合

調査の過程が科学的根拠に基づき、基本的情報（事案の概要、想定される原因及び論理的な原因判定）が記述されているものであって、今後の原因調査の高度化や予防対策への寄与等、波及効果が期待されるもの。

5. 表彰

5.1 受賞作品の決定・発表

受賞作品は、9月頃に決定・発表される予定です。なお、応募者には結果を通知します。

5.2 表彰の件数

表彰の件数は次のとおりです。

優秀賞	
消防職員・消防団員等の部における消防防災機器等の開発・改良	5件以内
消防職員・消防団員等の部における消防防災科学論文	5件以内
消防職員における原因調査事例	10件以内
一般の部における消防防災機器等の開発・改良	5件以内
一般の部における消防防災科学論文	5件以内
奨励賞	
消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例	3件以内

5.3 表彰式

受賞者には、11月に予定している表彰式（東京都内）において、消防庁長官より表

表彰及び副賞を授与します。

5.4 受賞作品の発表及び公開

- ・受賞作品は、表彰式と同時開催の全国消防技術者会議（東京都内）において、口頭発表又は展示発表等を行うこととなります（令和6年度の全国消防技術者会議での発表は、本表彰事業での受賞作品のみを対象とする予定です）。
- ・受賞作品は、「本文」が全国消防技術者会議資料に掲載されるとともに、報道発表や広報媒体、ホームページ等で公開されます。
- ・受賞作品の「本文」の公開にあたり、本表彰事業への応募をもって今後の公開に同意したものとみなし、改めての意思確認は行いません。

6. 個人情報の取扱い

応募書類に含まれる個人情報については、作品の審査、応募作品の概要の公開、受賞作品の発表及び事務局からの連絡業務においてのみ利用し、応募者本人の同意がある場合を除き、主催者以外の第三者に提供・開示することはありません。

7. 連絡先

その他、ご不明な点がございましたら、次の連絡先までお問い合わせください。

消防庁消防研究センター 研究企画部
〒182-8508 東京都調布市深大寺東町4-35-3

電話：0422-44-8331（代表）

メールアドレス：hyosho_nrifd 8 @soumu.go.jp

8. 参考

消防研究センターホームページ：<https://nrifd.fdma.go.jp>



消防防災科学技術賞：https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html



応募書類作成要領

- ❖ 本要領に適合しない場合、審査出来ないことがあります。
- ❖ 以下の内容を熟読の上、要領に沿って作成してください。
- ❖ 応募様式は、消防研究センターホームページ（消防防災科学技術賞）（https://nrfid.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html）からダウンロードしてください。
- ❖ 令和6年度のお募様式には、紙面左上（ヘッダー）に（R6）が表示されています。



- 応募書類は、1.表紙、2.概要、3.作品名等、4.本文で構成されるものとする。
- A4判（縦長）用紙片面に横書き、余白は天地各23mm、左右各25mmとする。

1. 表紙（必須様式は区分ごとに異なる。）

次の項目について記入すること。

- (1) 応募者の区分（「消防職員・消防団員等」「一般」の別を明記）
- (2) 作品名（フリガナ（全角カタカナ）を記入すること。）
- (3) 応募者
 - (i) 個人の場合
 - ・所属、氏名には、フリガナ（全角カタカナ）を記入すること。
 - ・複数名で応募する場合、応募者は6名以内とし、主たる応募者を最初に書くこと。
 - (ii) 団体の場合
 - ・団体名には、フリガナ（全角カタカナ）を記入すること。
- (4) 他の公募等への応募状況
 応募者（連名を含む。）が、応募内容と関連した内容で、学会発表、投稿、他の表彰への応募又は受賞がある場合は、記入欄にその旨記入するとともに、その原稿等の電子データを添付すること。
- (5) 連絡担当者（勤務先・自宅の別を記入）
 連絡担当者所属、氏名、所在地・住所、電話番号、E-mailアドレスを記入すること。

2. 概要（必須様式は区分ごとに異なる。）

- (1) 1ページとする。
- (2) 日本語で作成すること。
- (3) 区分に応じて求められている事項を記入すること。

2.1 全区分の共通項目次について記入すること。

- (1) 作品名
- (2) 主たる応募者
- (3) 要旨と公開用の図・表・写真
 要旨は280字以内で記入すること。
 公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ（タテ3cm、ヨコ3cm）で貼り付けること。

2.2 消防防災機器等の開発・改良 次について記入すること。

- (1) 「開発」又は「改良」の区分
- (2) 機器の利用分野
- (3) 先行する開発・改良との相違（先行する開発・改良がある場合に記入）
これまでの受賞作品例（例 消防庁HP、一般財団法人全国消防協会HP）及びその他のインターネット上の類似製品を確認すること。

2.3 消防防災科学論文 次について記入すること。

- (1) 先行する研究との相違（先行する研究がある場合に記入）
これまでの受賞作品例（例 消防庁HP、一般財団法人全国消防協会HP）及びその他のインターネット等で文献確認を行うこと。

2.4 消防職員における原因調査事例 次について記入すること。

- (1) 調査を行った機関（協力した機関も含む。）
調査を行った機関（協力した機関も含む。）は受賞の有無を問わず公開される。必要な場合は記号に置き換えること。
- (2) 先行する事例との相違（先行する事例がある場合に記入）
これまでの受賞作品例（例 消防庁HP、一般財団法人全国消防協会HP）及びその他のインターネット等で文献確認を行うこと。

3. 作品名等（必須）

3.1 全区分共通

作品名を記入すること。

3.2 消防防災機器等の開発・改良

次の事項について記入すること。

- (1) 競争的研究費等の使用について
- (2) 製造業者等との相談・調整状況
- (3) 商品化について
- (4) 消防機関との連携について

3.2 消防防災科学論文

次の事項について記入すること。

- (1) 競争的研究費等の使用について
- (2) 消防機関との連携について

4. 本文（必須）及び本文中の図・表・写真

4.1 本文 全区分共通

- (1) 16ページ以内で作成すること。
- (2) 日本語で作成すること。
- (3) フォントはMS明朝、フォントサイズは11とし、38字（全角）/行、35行/ページ、英数字はすべて半角を使用すること。また、環境依存文字（機種依存文字）は編集の際に文字化けするため使用しないこと。
- (4) 見出しの付け方は、章「1. ○○○○○○」、節「1.1 ○○○○○○」とすること。

-
-
- (5) 参考文献がある場合は、本文末尾に記載すること。

4.1.1 消防職員における原因調査事例（必須）

- (1) 原因調査における基本的情報（事案の概要、想定される原因及び論理的な原因判定）について必ず記述すること。

4.2 図・表・写真 全区分共通

- (1) 「消防防災機器等の開発・改良」は、図又は写真のいずれかを**必須**とし、「消防防災科学論文」及び「消防職員における原因調査事例」は、図・表・写真を任意とする。
- (2) 図・表・写真の位置は左右中央に配置し、連番を振ること。連番、題名、キャプション（簡潔な説明文）は、図・写真の下左右中央に、また、表の上左右中央に記入すること。
- (3) 写真に文字や矢印などの注釈を入れ込む場合は、その写真全体をグループ化し（編集の際に図の注釈が欠落しないようにするため）、モノクロ印刷しても見えやすい色に調整すること。
- (4) グラフ、データ、写真等を別資料から転載した場合は、必ず出典を明記し、掲載許可を得ること。

5. その他の注意事項

- (1) 「概要」及び「本文」は公開されるため、個人情報等の取扱いには十分注意すること。
- (2) 本要領に定められていない媒体（動画、カタログ、機器の実物等）は審査対象外とする。

令和5年度住宅防火防災推進シンポジウムの開催について

住宅防火対策推進協議会
(一財)日本防火・危機管理促進協会

令和5年度の住宅防火防災推進シンポジウムは、住宅防火対策推進協議会の主催で、「地域ぐるみで考えよう！住宅防火と防災対策」をテーマに宮城県柴田郡大河原町、新潟県糸魚川市、三重県志摩市の三会場で開催されましたので、その内容をご紹介します。

1 「宮城県柴田郡大河原町会場」

令和5年10月4日(水)柴田郡大河原町「えずこホール仙南芸術文化センター」で、仙南地域広域行政事務組合消防本部の協力で開催されました。

会場のえずこホールの「えずこ」とは、東北地方で“乳児を育てるために使ったワラ製のかご”のことで、この愛称には「地域文化を創造するゆりかご」との願いがこめられています。

シンポジウムは、主催者及び大沼村田町長のあいさつで始まり、第1部「基調講演」、第2部「トークショー(ダニエル・カールの防災がんばっぺ)」、第3部「住宅防火防災に関するパネルディスカッション」で実施されました。

第1部の「基調講演」では、菅原進一東京大学/東京理科大学名誉教授から住宅火災を



えずこホール/仙南芸術文化センター



ダニエル・カールの防災がんばっぺ！風景

未然に防ぐ重要性や地域の力のつくり方などの内容を盛り込んだ講演が行われました。

第2部の「トークショー（ダニエル・カールの防災がんばっぺ）」では、高橋進一宮城県消防協会仙南地区支部支部長、大宮幸子仙南地区婦人防火クラブ連合会会長、古山宗之介仙南地域広域行政事務組合柴田消防署長から、それぞれ組織概要、活動状況や地元の名勝、名物などが紹介され、ダニエル・カールさんからはアメリカの消防事情の紹介やアメリカにおける住宅用火災警報器設置率等のお話がありました。

第3部の「パネルディスカッション」では、菅原教授をコーディネーターとし、ダニエル・カールさん、濱田賢太郎総務省消防庁予防課課長補佐、的場正廣村田町消防団副団長、村上圭子村田町婦人防火クラブ連合会会長、大平榮子仙南地区婦人防火クラブ連合会副会長、遠藤次男仙南地域広域行政事務組合消防本部次長兼予防課長がパネリストとして登壇されました。はじめに濱田課長補佐から全国で発生した住宅火災の現状や住宅火災による死者数の状況について説明があり、これを受けて遠藤次長から仙南消防本部管内における過去5年間の火災件数、死者、住宅用火災警報器の奏功事例についての紹介がありました。また、的場副団長からは管内での大規模な山林火災発生経験から、関係機関と連携した各種訓練の実施について、村上会長からは春と秋の火災予防運動で「かまど検査」と称して、それぞれの地区の防火クラブ員が各家庭を一軒一軒回って、防火啓発のチラシを配りながら、火災予防を呼びかける活動について、さらに大平副会長からは、クラブ員の研修で普通救命講習会を開催し、家庭や地域の防災力向上と女性ならではのきめ細かさを生かし、被災した方に寄り添った対応について、それぞれの取組みの紹介がされました。

ダニエル・カールさんからは、アメリカにおける住宅用火災警報器の設置による死者の減少、住宅用火災警報器の電池切れの対策、子供用パジャマの防災規制、子供に対する防災教育について紹介されました。

会場ロビーでは、（一社）日本火災報知機工業会が住宅用火災警報器、（一社）日本消火器工業会が住宅用消火器、（一社）日本消火装置工業会が住宅用スプリンクラー設備、（公財）日本防災協会が防災品、ガス警報器工業会が火災・ガス・CO警報器を展示し、住宅用防災機器等の普及啓発に努めました。



住宅用防災機器等の展示

2 「新潟県糸魚川市会場」

令和5年11月25日（土）、市役所や市民図書館に隣接し、2015年にはリニューアルを記念して「NHKのど自慢」が開催された糸魚川市民館において、糸魚川市消防本部の協力と新潟県ほかの後援で開催されました。

主催者及び米田糸魚川市長のあいさつに続いて、第1部の菅原進一名誉教授の「基調講演」が行われ、第2部のトークショー「ダニエル・カールの防災がんばっぺ」では、青木資甫子EKIKITA WORKS事務局長、竹田健一糸魚川消防長が登壇され、青木事務局長から、大火のあったエリアで住み暮らしていたり、事業を行っているエリアにゆかりのあるメンバーで構成されているまちづくり団体のEKIKITA WORKSの活動を、竹田消防長からは、火災発生件数・火災原因などの説明や住宅防火活動の推進、自治会の自主防災活動などについてそれぞれ紹介がありました。



糸魚川市民会館

第3部の「パネルディスカッション」では、菅原名誉教授をコーディネーターに、ダニエル・カールさんのほか泉貴之総務省消防庁予防課予防係長、斉藤直文糸魚川市消防団長、駅北キターレの矢島好美さん、伊藤修糸魚川市消防本部予防課長がパネリストとして登壇されました。まず、伊藤予防課長からは住宅用火災警報器の普及啓発のため、みんなでつなぐ消火の連鎖の合言葉「ジオしき」を考案したことについて説明がありました。「ジ」は住警器で気付く、「オ」は落ち着いて119番通報、「し」は消火器で消火、「き」は協力して40mmホースで消火と、大火を経験した教訓から生まれた行動を住民のみなさんでの取り組んでいるものです。また、斉藤消防団長からは消防団の概要と沿革、予防部、山岳隊、ドローン隊の機能別分団があり特色ある活動を行っていることが、キターレの矢島さんからは地域の活動のサポートとして、大火の翌年から地域が続いている「火の用心夜回り隊」のサポートなどについての紹介がありました。



「防火・防災がんばっぺ！」コール

最後は、ダニエル・カールさんの音頭で「防火・防災がんばっぺ！」コールを登壇者全員と客席のみなさんで行い閉会しました。

会場ロビーでは来場者に対して、各工業会の皆さんによって住宅用火災警報器、住宅用消火器、住宅用スプリンクラー設備、防災品、火災・ガス・CO警報器などの紹介が行われ、住宅用防災機器等の普及啓発に努めました。



住宅用防災機器等の展示

3 「三重県志摩市会場」

今年度3箇所目の住宅防火防災推進シンポジウムは、令和6年1月28日（日）志摩市阿児アリーナ（通称阿児アリーナ）で開催されました。阿児アリーナは鳥羽志摩で第一の施設と設備を持つホールです。阿児アリーナが在る阿児町は、伊勢志摩国立公園に含まれ、観光業や漁業（真珠産業）で知られており、21世紀に残したい日本の風景第6位の美しい街です。



志摩市阿児アリーナ

開会に先立ち、1月1日に発生した能登半島地震により犠牲になられた方々に黙祷を捧げた後、主催者及び橋爪志摩市長のあいさつと進み、第1部「基調講演」、第2部「トークショー（ダニエル・カールの防災がんばっぺ）」、第3部「住宅防火防災に関するパネルディスカッション」の順でプログラムが進行しました。

第1部の「基調講演」では、菅原進一名誉教授から住宅火災を未然に防ぐ重要性や地域の力のつくり方などの内容を盛り込んだ講演が行われました。

第2部のトークショー「ダニエル・カールの防災がんばっぺ」では、志摩市と伊勢市の防火協会をまとめる西尾新志勢防火協会連合会会長と久保宏消防長が登壇され、ダニエル・カールさんの進行でトークショーが行われました。

第3部パネルディスカッション前の休憩時間に、来場者のみなさんは、アリーナエントランスホールの各工業会展示ブースに立ち寄り、説明者の説明を聞きながら住宅用火災警報器の試験ボタンを実際に押し警報音を聞いたり、住宅用消火器を手に取り使用方法

法の体験をしたりと各種住宅用防災機器等についての知識を深めていました。

休憩が終わり第3部の「パネルディスカッション」は、コーディネーターの菅原名誉教授からパネルディスカッションの目的と課題が示され、続いて能登半島地震への対応のため欠席となった総務省消防庁予防課担当官に代わり住宅火災の現状を一般財団法人日本防火・危機管理促進協会山口英樹理事長から説明されました。これを受けて志摩市消防本部

万代和平予防課長が管内の火災状況を、澤村幸重志摩市消防団長が志摩市消防団の概要や日頃の活動について説明されました。また北山亥之生志摩市防災危機管理室長兼危機管理監からは、志摩市の重点政策の1つである「防災・減災対策の加速」の取り組みについてのお話がありました。

喜田珠美志摩市介護・総合相談支援課長からは、市内の企業等に「あんしん見守り協力団体」として登録いただき、通常の業務を通じて高齢者の防火対策をしている活動についての紹介がありました。

最後は、ダニエル・カールさんの音頭で「防火・防災がんばっぺ〜！」コールを登壇者と会場のみなさん一緒に行い、閉会しました。



全国消防イメージキャラクター「消太」登場



職員採用情報 [新卒]

総務部 庶務課



【求む！理系人材】

「日本唯一の検定機関」として、信頼できる消防機器のために貢献！

私たちの身近にある消防機器（感知器、消火器、スプリンクラーヘッド等）は、どれも緊急時には確実に動作しなければならないものばかりです。

これらの消防機器には、日本消防検定協会が、法令で定められた技術基準に基づく試験・検査を実施し、合格した製品すべてに「国家検定合格之証」の銀色の表示が付されています。また、これらの消防用機器の試験等とおして、火災等の災害からの被害を軽減させることを目的とし、国民生活の“安全・安心”に直結する業務を行っています。

【求める人材】

- ◆ 社会の安全・安心の役に立ちたい人
- ◆ 幅広く学ぶ意欲のある人



【採用情報】

日本消防検定協会ホームページの採用情報をご覧ください。

<https://www.jfeii.or.jp/recruitment/index.html>

採用情報
QRコード

【担当者からのメッセージ】

当協会は、100人程度の小さな組織ですが、定年まで安定して働いて頂ける環境が整っています。また、完全週休2日制で、福利厚生もあり、レジャーや宿泊の補助を受けることができます。

ぜひ、社会の安全・安心に貢献したい方、幅広く知識を身につけたい方をお待ちしています。



有効期限を経過した受託評価品目

【動力消防ポンプ】

試験番号	承認年月日	住所	依頼者	有効期限の終期日
P0824	H25.9.13	北海道札幌市東区北丘珠5条4丁目3番1号	田井自動車工業株式会社	R5.10.8

【非常警報設備・表示灯】

型式番号	承認年月日	住所	依頼者	有効期限の終期日
認評非第30～6号	H30.12.13	東京都北区田端六丁目1番1号	日本ドライケミカル株式会社	R5.12.12

【非常警報設備・一体型】

型式番号	承認年月日	住所	依頼者	有効期限の終期日
認評非第30～7号	H30.12.13	東京都北区田端六丁目1番1号	日本ドライケミカル株式会社	R5.12.12
認評非第30～8号	H30.12.13	東京都北区田端六丁目1番1号	日本ドライケミカル株式会社	R5.12.12

上記の機械器具等が、型式に係る有効期限を経過しましたのでお知らせします。

上記の機械器具等は、有効期限の終期日以降、当該型式に基づく製品について新たに当協会の型式適合評価を受け、合格表示が行われることはありません。

既に設置され又は型式適合評価を受け合格表示が行われた上記の機械器具等については、型式適合評価時において基準への適合性が確認されており適正な設置及び維持管理がされていれば、当該有効期限の経過による使用への影響はありません。

業界の動き

—会議等開催状況—

◆（一社）日本火災報知機工業会◆

○業務委員会（令和6年2月8日）

- ・令和6年能登半島地震による被害者を救済する義援金を贈ることに関する議決について
- ・自動火災報知設備受信機劣化診断 自主管理委員会 定期報告について
- ・住宅用火災警報器関連の報告他、検定申請個数等の定例報告
- ・事務局長会議の結果について
- ・委員長連絡会報告

○メンテナンス委員会

（令和6年2月20日）

- ・点検実務検討小委員会報告
- ・維持運用管理手法小委員会報告
- ・委員長連絡会報告

○技術委員会（令和6年2月15日）

- ・感知器の環境特性調査小委員会報告
- ・火報試験基準検討小委員会報告
- ・令和6年度技術員会活動テーマについて
- ・令和5年度消防白書の紹介
- ・委員長連絡会報告

○設備委員会（令和6年2月22日）

- ・設備性能基準化小委員会報告
- ・工事基準書改訂小委員会報告
- ・光警報装置/図記号に関する委員会報告

告

- ・官公庁関連、業界動向等について
- ・委員長連絡会報告

○システム企画委員会

（令和6年2月26日）

- ・火報関連システムとの連携調査小委員会報告
- ・消防予第213号通知について
- ・令和6年度活動テーマ（案）について
- ・委員長連絡会報告

○住宅防火推進委員会

（令和6年2月28日）

- ・交換推進WGについて
- ・住宅用火災警報器検定申請数について
- ・お客様電話相談室受付結果について
- ・住宅防火防災推進シンポジウム事業志摩市消防本部報告について
- ・CATV等による住宅防火広報事業in鹿沼報告について
- ・住宅における電気火災に係る防火安全対策検討会（第2回）について
- ・委員長連絡会報告

◆（一社）日本消火器工業会◆

○第11回 企業委員会

（令和6年2月8日）

- ・検定等申請・回収状況
- ・機器協会 会議報告
- ・消火器リサイクル推進センターからの報告

協会通信

- 第10回 技術委員会
(令和6年2月19日 対面・Web併用)
 - ・消火器の検定細則について

- 令和5年度2月 臨時総会
(令和6年2月20日)
 - ・理事選任の件について

- 第6回 理事・総務合同会議
(令和6年2月20日)
 - ・定例報告
 - ・令和5年度決算見込・令和6年度予算(案)について
 - ・令和6年度事業計画(案)について
 - ・令和6年度社会貢献事業について
 - ・機器協会会長表彰について
 - ・能登半島地震義援金について

◆(一社)日本消火装置工業会◆

- 第440回「技術委員会」
(令和6年2月2日 日本消火装置工業会)

以下の報告を行った

- ・日本金属継手協会の改正案作成委員会への委員選任について
- ・「講師登録申請書の承認」について
- ・その他

- 第223回「第一部技術分科会」
(令和6年2月16日 日本消火装置工業会)
 - ・配管腐食に対する注意喚起のリーフ

- レットについて
- ・閉鎖型SPヘッドについて
- ・気候環境変化が消火設備に与える影響の検討について
- ・その他

- 第219回「第二部技術分科会」
(令和6年2月15日 日本消火装置工業会)
 - ・第二部会活動報告について
 - ・市中在庫量調査関連資料について
 - ・PFOS・PFOA取扱いマニュアル等について
 - ・その他

- 第201回「第三部技術分科会」
(令和6年2月20日 日本消火装置工業会)
 - ・CO₂ガイドライン工業会統一見解の改訂について
 - ・容器弁点検済シールについて
 - ・第18回合同委員会について
 - ・その他

◆(一社)日本消防ポンプ協会◆

- 大型技術委員会
(令和6年2月22日 ポンプ協会)
 - ・補助規格の見直しについて
 - ・その他

協会通信

検定協会だより 令和6年3月

新たに取得された型式一覧

型式承認

種 別	型 式 番 号	申 請 者	型 式	承認 年月日
小型消火器	消第 2023～6号	モリタ宮田工業 株式会社	粉末（ABC） 3.5kg（蓄圧式、アルミニウ ム製）	R6.1.9
	消第 2024～1号	日本ドライケミカル 株式会社	粉末（ABC） 1.2kg（蓄圧式、アルミニウ ム製）	R6.1.29
P型2級受信機 （蓄積式）	受第 2023～17号	能美防災株式会社	交流100V、外部配線抵抗50Ω、公称蓄積時 間60秒	R5.12.25

品質評価 型式評価

種 別	型 式 番 号	依 頼 者	型 式	承認 年月日
動力消防ポンプ	P010H	株式会社 シバウラ防災製作所	可搬消防ポンプ、B-2、P556	R5.12.5
	P010I	株式会社 シバウラ防災製作所	可搬消防ポンプ、B-3、P477	R5.12.5
	P010J	株式会社 シバウラ防災製作所	可搬消防ポンプ、B-3、P456	R5.12.5
	P3022	株式会社 WERM	消防ポンプ自動車、A-2、WMW-1	R6.1.15
消防用ホース	H0124FC20A	芦森工業株式会社	平、合成樹脂、使用圧1.3、呼称65（シングル、 ポリエステル・ポリエステルフィラメント・ ポリエステルフィラメント綾織、円織）	R6.1.4
	H0324EA05A	帝国繊維株式会社	平、合成樹脂、使用圧1.3、呼称50（シングル、 ポリエステル・ポリエステルフィラメント交 織、円織）	R6.1.22
	H0325EA04A	帝国繊維株式会社	平、合成樹脂、使用圧1.6、呼称50（シングル、 ポリエステル・ポリエステルフィラメント交 織、円織）	R6.1.22

認定評価 型式評価

種 別	型 式 番 号	依 頼 者	型 式	承認 年月日
非常警報設備・ スピーカー	認評放第 2024～1号	TOA株式会社	コーン型（1W・S級、3W・M級、5W/ 15W・L級）、音響パワーレベル89dB	R6.2.6
	認評放第 2024～2号	TOA株式会社	コーン型（1W・S級、3W・M級、10W/ 30W・L級）、音響パワーレベル90dB	R6.2.6
	認評放第 2024～3号	TOA株式会社	コーン型（3W/15W/30W/60W・L級）、 音響パワーレベル90dB	R6.2.6

検定協会だより 令和6年3月

検定対象機械器具等申請一覧表

種別		型式試験申請 件数	型式変更試験 申請件数	型式適合検定			
				申請件数	申請個数	対前年 同月比(%)	対前年 累計比(%)
消火器	大型	1	0	30	6,441	151.9	112.5
	小型	1	0	62	493,447	85.2	102.9
消火器用消火薬剤	大型用	1		0	0	皆減	95.3
	小型用			14	4,602	67.5	89.2
泡消火薬剤		0		30	224,720	105.7	87.9
感知器	差動式スポット型	0	0	35	248,832	87.8	92.5
	差動式分布型	0	0	8	3,300	44.0	83.2
	補償式スポット型	0	0	0	0	-	皆減
	定温式感知線型	0	0	0	0	-	皆減
	定温式スポット型	0	1	36	121,274	101.7	89.5
	熱アナログ式スポット型	0	0	12	6,859	103.3	86.7
	熱複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	イオン化式スポット型	0	0	0	0	-	皆増
	光電式スポット型	0	0	29	112,225	73.8	91.9
	光電アナログ式スポット型	0	0	19	36,057	56.5	78.2
	光電式分離型	0	0	4	120	32.9	120.4
	光電アナログ式分離型	0	0	2	156	195.0	134.0
	光電式分布型	0	0	0	0	-	-
	光電アナログ式分布型	0	0	0	0	-	104.5
	煙複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	熱煙複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	紫外線式スポット型	0	0	1	20	皆増	125.3
	赤外線式スポット型	0	0	5	954	63.3	109.7
	紫外線赤外線併用式スポット型	0	0	0	0	皆減	86.4
炎複合式スポット型等	0	0	0	0	-	-	
発信機	P型1級	0	0	11	19,803	117.3	76.1
	P型2級	0	0	4	2,836	85.2	70.6
	T型	0	0	0	0	-	-
	M型	0	0	0	0	-	-
中継器		0	0	94	32,368	83.4	97.5
受信機	P型1級	0	0	45	2,164	76.0	98.6
	P型2級	0	0	15	4,065	110.9	67.7
	P型3級	0	0	0	0	-	1.2
	M型	0	0	0	0	-	-
	R型	0	0	8	163	149.5	124.7
	G型	0	0	4	4	25.0	66.9
	GP型1級	0	0	11	22	137.5	102.6
	GP型2級	0	0	0	0	-	-
	GP型3級	0	0	10	30,252	89.0	91.8
GR型	0	0	19	261	129.2	106.5	
閉鎖型スプリンクラーヘッド		1	0	44	250,535	98.5	161.9
流水検知装置		0	0	41	2,430	91.5	102.3
一斉開放弁		0	0	17	2,495	172.2	139.6
金属製避難はしご	固定はしご	0	0	2	32	106.7	128.2
	立てかけはしご	0	0	0	0	-	-
	つり下げはしご	0	0	24	14,814	95.4	98.1
緩降機		0	0	3	500	63.3	107.8
住宅用防災警報器	定温式住宅用防災警報器	0	0	22	82,070	86.2	92.7
	イオン化式住宅用防災警報器	0	0	0	0	-	-
	光電式住宅用防災警報器	0	0	33	326,575	92.4	92.4
合計		4	1	694	2,030,396	89.8	100.2

※前年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

性能評価申請一覧表

特殊消防用設備等性能評価業務	性能評価申請件数	性能評価変更申請件数
特殊消防用設備等の性能に関する評価	0	0

受託評価等依頼一覧表

品質評価業務	型式評価依頼件数	型式変更評価依頼件数	更新等依頼件数	型式適合評価			
				依頼件数	依頼個数	対前年 同比(%)	対前年 累計比(%)
補助警報装置及び中継装置	0	0	0	0	0	-	-
音響装置	0	0	0	1	10	皆増	12
予備電源	1	0	1	3	19,200	68.7	91.9
外部試験器	0	0	0	6	170	100.0	173.2
放火監視機器	放火監視センサー	0	0	0	0	-	128.1
	受信装置等	0	0	0	0	-	皆減
光警報装置		0	0	0	0	-	42.7
	光警報制御装置	0	0	1	0	-	8.7
屋外警報装置		0	0	0	0	-	-
	屋外警報装置に接続する中継装置	0	0	0	0	-	-
消火器加圧用ガス容器	0	0	0	1	10,000	18.8	141.0
蓋圧式消火器用指示圧力計	0	0	0	4	353,000	90.9	99.9
消火器及び消火器加圧用ガス容器の容器弁	0	0	0	5	3,532	441.5	81.5
消火設備用消火薬剤	0	0	0	5	43,260	52.2	94.1
住宅用スプリンクラー設備		0	0	0	0	-	-
	構成部品	0	0	0	0	-	-
動力消防ポンプ	消防ポンプ自動車	0	0	40	51	60.7	93.6
	可搬消防ポンプ	0	0	1	117	42.7	100.8
消防用吸管	呼称65を超えるもの	0	0	3	315	35.0	102.3
	呼称65以下のもの	0	0	2	70	26.9	99.3
消防用ホース	平 40を超えるもの	0	0	7	16	32,875	233.4
	平 40以下のもの	0	0	3	16	47,893	173.5
	濡れ	0	0	0	0	-	-
	保形	0	0	0	7	9,000	180.0
	大容量泡放水砲用	0	0	0	0	-	41.7
	差込式	0	0	63	27	106,878	121.0
消防用結合金具	ねじ式	0	0	62	24	13,390	76.4
	大容量泡放水砲用	0	0	0	0	-	皆減
	同一形状	0	0	0	1	22	皆増
漏電火災警報器	変流器	0	0	0	9	3,920	75.0
	受信機	0	0	0	9	31,388	111.2
エアゾール式簡易消火具	0	0	0	1	18,985	79.2	92.4
特殊消防ポンプ自動車	2	0	0	27	28	77.8	148.8
特殊消防自動車				3	3	150.0	276.5
可搬消防ポンプ積載車	0	0	0	2	3	皆増	350.0
ホースレイヤー	0	0	2	0	0	皆減	88.9
消防用積載はしご	0	0	0	8	178	89.9	128.8
消防用接続器具	0	0	0	14	4,002	91.5	108.0
品質評価業務				確認評価			
				依頼件数	依頼個数	対前年 同比(%)	対前年 累計比(%)
外部試験器の校正				9	26	136.8	90.6
オーバーホール等整備				6	6	85.7	106.7

※前年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

受託評価等依頼一覧表

認定評価業務	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
				依頼件数	依頼個数	対前年 同比 (%)	対前年 累計 (%)	
地区音響装置	1	0	0	20	24,361	147.3	73.6	
非常警報設備	非常ベル及び自動式サイレン	0	0	1	42	5,433	152.3	83.0
	放送設備	0	0	8	82	97,660	114.1	91.6
パッケージ型自動消火設備		0	0	0	0	-	-	
	構成部品	0	0	0	0	0	-	
総合操作盤	0	0	0	0	0	-	-	
屋内消火栓等	易操作性1号消火栓	2	0	10	6	1,970	58.1	95.3
	2号消火栓	0	0	8	4	851	47.5	121.7
	広範囲型2号消火栓	0	0	0	5	710	48.5	100.6
	補助散水栓	0	0	0	0	0	-	-
	ノズル	0	0	0	23	11,969	136.4	105.4
認定評価業務	装着番号付与 確認評価 依頼件数		更新等 依頼件数	製品確認評価				
屋内消火栓等	消防用ホースと結合金具の装着部	0	0	14	61,280	129.1	114.5	
認定評価業務	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
特定駐車場用泡消火設備	0	0	0	14	14,300	81.7	139.6	
認定評価業務	総合評価 依頼件数	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価			
放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備 (評価)	0							
放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備・構成装置	0	0	0	8	8	100.0	72.4	
特定機器評価業務	総合評価 依頼件数	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価			
特定消防機器等	0	0	0	0	11	25,391	327.4	121.3
受託試験及びその他の評価	依頼件数			依頼件数	依頼個数	対前年 同比 (%)	対前年 累計 (%)	
受託試験 (契約等)	1							
受託試験 (その他の契約等)				1	1	50.0	193.3	
評価依頼 (基準の特例等)	0							

※前年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

編集 後記

春分の日を迎え、春のお彼岸となり、今年も早や三月（みつき）が経とうとしています。

間もなく年度の区切りとなり、様々なことに変化が現れてきます。この「検定協会だより」のご案内も、今月号をもって紙媒体から電子媒体へと引き継がれてまいります。

長い間、紙媒体での「検定協会だより」をご愛読いただきまして、誠にありがとうございました。

来月号からは、スマホやパソコン等の画面から、引き続き、ご覧いただきますよう、よろしく願い申し上げます。

話しは変わりますが、私の後方で昨年からは新しい中央試験場の工事が始まっておりましたが、工事用シートと建物が、地下階、1階、2階と伸びてきて、とうとう目の前に迫ってきました。

まもなく外を見ても、シートに覆われた世界に

なってしまうそうです。しかし、これも新しい建物が完成し、移るまでの辛抱だと自分に言い聞かせることと致します。

さて、今月号では、浜松市消防局消防長の太田陽視様に巻頭のことばを、消防庁消防研究センターからは「令和6年度消防防災科学技術賞応募要領」をご寄稿いただき、誠にありがとうございました。

4月号では、堺市消防局長の西尾 学様に巻頭のことばを、当協会からは「令和6年度日本消防検定協会予算概要」などを掲載する予定です。

検定協会からのお願い

検定協会では、消防用機械器具等について検定及び受託評価を行い、性能の確保に努めているところですが、さらに検定及び受託評価方法を改善するため、次の情報を収集しています。心あたりがございましたら、ご一報下さいますようお願いいたします。

(1) 消防用機械器具等の不動作、破損等、性能上のトラブル例

(2) 消防用機械器具等の使用例（成功例又は失敗例）

連絡先 東京都調布市深大寺東町 4-35-16
日本消防検定協会 企画研究課
電話 0422-44-8471（直通）
E-mail
<kikaku@jfeii.or.jp>

発行 日本消防検定協会

<https://www.jfeii.or.jp>



本 所 〒182-0012 東京都調布市深大寺東町 4-35-16
TEL 0422-44-7471(代) FAX 0422-47-3991



大阪支所 〒530-0057 大阪市北区曽根崎 2-12-7 清和梅田ビル4階
TEL 06-6363-7471(代) FAX 06-6363-7475



虎ノ門事務所 〒105-0021 東京都港区東新橋1-1-19 ヤクルト本社ビル16階
TEL 03-5962-8901 FAX 03-5962-8905

検定協会だよりはホームページでもご覧になれます。

当該刊行物にご意見・ご要望・ご投稿がありましたら、本所の企画研究部情報管理課検定協会だより事務局までお問い合わせください。
e-mail : kikaku@jfeii.or.jp 専用 FAX 0422-44-8415

